

「清心」

文責 校長 中原弘之

学校教育目標 「学校と地域を愛し、知・徳・体の調和のとれた児童の育成」

熱中症予防、自然災害対策

熱中症予防のため、改めて次のことをご確認ください。

- ①こまめな水分補給（のどがかわいていなくても飲む。汗をたくさんかいたら塩分も補給する。）
 - ②30分に1回休憩（体温を下げるために休む。エアコンや日影を効果的に利用する。）
 - ③服装に気をつける（薄着で風通しのよいものを。帽子も大切。）
- ※栄養・睡眠・休養を十分にとり、規則正しい生活が何より大切です。

また、台風などの自然災害も心配されます。気象情報に気を配り、避難場所を予め確認しておくなど、早めの対策をお願いいたします。

あいさつと返事、素早い行動

各地区でラジオ体操が実施されていることと思います。朝起き、からだづくり、地域の方との交流など、その意義を理解し、子どもたちを積極的に関わらせたいものです。また、実施場所におけるあいさつや、地域の方の指示には返事をし、素早く行動するなどご家庭でもご指導をお願いいたします。

祇園歴史の旅（その44）「地名の由来」

佐世保市教育委員会編集・発行 小学生向け歴史副読本『ふるさと歴史めぐり』2016年 第6版（改訂版）から引用。

『させほ』でも間違いではありませんが、正しくは『させぼ』と呼びます。この地名の由来については幾つかの説がありますが、次の2つの説が有力です。

一つは、『サセブ』の木が起源であるとするものです。サセブとはシャシャンボという木の方言で、この木がたくさん生えていたので『サセブ』がなまって『させぼ』となったというものです。この木は毎年11月頃になると、黒紫色の実を付けます。小さな実ですが、甘酸っぱくておいしい木の実です。

もう一つは、中世（鎌倉や室町時代）の地名とするものです。そのころの港には、『津』が単位として付けられています。滋賀県の大津、静岡県焼津などです。同じように、村には『保』という単位が付けられていました。そして、佐世保は佐世保川流域の狭い谷間、『狭瀬』（させ）にあります。つまり、『狭い谷間にある村』ということで『狭瀬保』（させほ）となり、これが後に『佐世保』（させぼ）となったというものです。」

次回は、「原始古代の佐世保」と題して、市中心部の遺跡などをご紹介します・・・。